鳩と蟻

〈はじめに〉 イソップ物語が原型になっているお話です。三、四歳の幼児向けで反復が多く、幼児の、反復を好む傾向にふさわしいお話といえます。大人が聞いたらくどいと思えるような繰返しが、子供の心には快さを与えます。話をするときは、身がまえずにサラッと始めてください。漢字はカードを出しながら、その字の話の出たときに、なにげなく見せるのがコツです。話を中断して「これが“森”という字ですよ」などと強調するのは物語の流れをストップさせ、せっかく興味が湧いてきて、「次は何かな」と思う期待感をそこねてしまうからです。ここでは「**森、池、鳩、蟻、風、木の枝、猟師、鉄砲**」などが提出可能ですが、最初からこれらを全部示す必要はありません。二回、三回と話を繰返すうちに、漢字の数を増やせばいいのです。はじめは鳩と蟻の二字でも一向にかまいません。

今日はこれから皆さんに、おもしろいお話をしてあげます。 これはね、何が出てくるお話でしょう。

――――「モリ！」

そう、森、よく知ってるんだね。

あるところに、大きな大きな森がありました。その大きな森の中に、小さなかわいらしい池がありました。この池の中にはね、あまり小さいのでお魚が一匹も住んでいませんでした。池というとたいてい、いろんなお魚が住んでいるところでしょう、金魚がいたり、それから、そういうお魚が…。それから、ことによるとおたまじゃくしや、カエルなんかもいるかもしれません。

ところがこの池の中にはね、なんにも住んでいませんでした。そのかわり、そのかわりというのもおかしいけれどもね、この池のそばに蟻が住んでいました。蟻って知ってるかな？

――――「ハーイ！」

見たことあるね。

――――「ハーイ！」

こんなちいちゃな黒い色をした虫、で、甘い物が好きだね。皆さんと同じで。甘いケーキなんかが大好きです。それでね、体が、蟻さんは小さいけれど、実は大変な力持ち。自分の体の何倍もあるような大きな物を平気で運びます。

それからね、かしこいことはね、おいしい食べ物を見つけてもすぐに食べてしまわない。どうするかというと、それをね、お家へ持って行って、ちゃあんとしまっておくのね。そう、そして、冬になると食べ物がなくなって、たいていの虫はみんな死んでしまいます。食べものがないと死んでしまう。おなかがすいて、みなさんだって食べるものをちっとも食べないと死んでしまいますね。それでね、蟻さんは食べ物をちゃあんと家にたくさんしまっておいて、冬になっても食べ物に困らないようにするのです。

だから、他の虫は死んでしまうけれども、蟻さんは冬になっても死なない。そして、温かい夏が来ると、また穴の中から出てきて、せっせと働いて食べものをお家にしまっておくんです。

ある、暑い夏の日のことでした。蟻さんが、何かおいしい食べ物はな

いかと、探していますと、あったあった、体よりずっと大きなケーキのかけら。このくらいの、皆さんから見るとね、口にも入れたくないようなちっぽけなかけら。でも蟻さんから見ると、大きな大きなケーキです。

「ああ、これはいいものを見つけた。これだけあったら何日も食べられるよ、よしお家へ持って行こう」

よいこらしょ、よいこらしょ、よいこらしょ、よいこらしょ、よいこらしょと、いっしょうけんめいに蟻さんは、このケーキをお家へ引っ張って行きました。たいへん疲れました。そしてとってものどがかわきました。

「ああ、お水飲みたい、お池に行ってお水でも飲みましょう」――蟻さんは池に行ってお水を飲みました。口をつっこんで「シュー、ああおいしい、シュー、もう一杯のもうかな、シュー、ああおいしい、いっしょうけんめいに働くと、お水っておいしいんだな、シュー、もう一杯、ああおいしい」

蟻さんがおいしいおいしいってお水を飲んでいる時です。たいへんな事が起こりました。それは、風が起こった。強い風がビューッと吹いてきて、お水を飲んでいた蟻さんを吹き飛ばしました。そして吹き飛ばされた蟻さんは、池の中へポチャ―ン。蟻さんは泳げないの。それでね、「たすけてくれえ！たすけてくれえ！」と大きな声をあげて泣きました。

それを聞きつけたのが、森の中に住んでいた鳩さんです。鳩が、それを聞きつけてねえ、飛んできました。鳩さん、見ると蟻さんは苦しそうに「たすけてくれえ！たすけてくれえ！」とさわいでいる。

「あっ蟻さんが大変！たすけてあげなくしゃ」――鳩さんはあたりをきょろきょろ見まわしますと、そこにちょうどいい木の枝が見つかりました。このくらいの木の枝が落ちています。「そうだ、これがいい」――木の枝を口にくわえると、飛んで行って池の蟻さんがぱちゃぱちゃしているすぐそばに落としてやりました。

「蟻さーん、その木の枝につかまるのよ！」と教えてやりましす。蟻さんは、その木の枝にしっかりつかまりました。するとまた風がビューッと吹いてきました。でも、蟻さんは、この木の枝にしっかりつかまっていました。風に吹かれた木の枝は、シュー……、ボートのようにいきおいよく走って向こう岸にぴたっと着いたから、蟻さんは無事にお家へ帰ることができました。

蟻さんは鳩さんに助けられたでしょう。それでね蟻さんは「鳩さん、助けてくれてどうもありがとう」ってねお礼を言ったんです。さあ皆さん、この「ありがとう」という言葉が大事なのよ。みなさんね、物をもらった時、人から親切をしてもらった時、そういう時にね「ありがとう」って言える子はいい子だけれど、だまっている子はおばかさんよ。「ありがとう」って言えるかな？

――――「ハーイ！」

よろしい、じゃあみんないい子だね。みんな蟻さんもいい子でしたね。ちゃんと鳩さんに「助けてくれてどうもありがとう」と言ったんです。

その次の日です。森の中に恐い顔をした人がやってきて、あっちをぎょろり、こちらをぎょろりみまわしています。さあ、なんだか大変なことになってきました。それはね、猟師でした。猟師というのは鉄砲をもって、けだものや鳥を見つけると、ズドーン、と撃つのが仕事ですね。すごい鉄砲を持っていますよ。さあ、その猟師がこの森へやってきたのです。

そして鳩を見つけると、後ろの方からじっと鉄砲でねらいをつけました。「あぶない！」――――猟師が引き金を引くと、鳩さん死んでしまいます。

それを見ていたのが蟻さんですね。蟻さんはそれを見ると、「あっ猟師が鉄砲で鳩さんをねらっている。たいへんだ、助けてあげなくちゃ！」といっしょうけんめいになってかけて行きました。

そうしてかけていくと、猟師の足にガブッとかみついたのね。そうしたら猟師が「痛あい」と言って飛び上がって、それで鉄砲が鳩さんに当たらなかった。鳩さんは逃げることができました。それで今度は、鳩さんが蟻さんに「蟻さん助けてくれてどうもありがとう」とお礼を言いました。

前は鳩さんが蟻さんを助けて、今度は蟻さんが鳩さんを助けたんです。鳩さんと蟻さんと仲がいいね。みんなもこの鳩さんと蟻さんのように、お友達同士困ったときには助けてやるのがいい子なんです。みんなできるかな。

――――「ハーイ！」

ああ、できる。いっしょうけんめいがんばってください。それじゃね、鳩と蟻の話はこれでおしまい。

それではいろんな字が出てきました。読めるかな。

――――「モリ！」

森という字でしたね。森というのはどういうところかな。木がたくさんあるところね。ハイこれはなんという字？

――――「イケ！」

はい池でしたね、お水がたまっているところ。はいこの字、

――――「ハト！」

鳩ですね、この字。

――――「アリ！」

蟻、これは？

――――「カゼ！」

これは風ですね、風が吹いてきてどうなったっけ、飛ばされた、何が飛ばされた？

――――「アリが！」

蟻が飛ばされたね、はいこれはなんでしょう。木の枝ですよ。これは？

――――「リョーシ！」

はいこれは猟師ですね、はいこれは？

――――「テッポー！」

鉄砲。じゃあもう一回はじめから読んでみましょう。

森、池、鳩、蟻、風、木の枝、猟師、鉄砲。ハイよろしい、はいよくできました。これでおしまい。（拍手）